

丹沢山山行報告

【山行日】 2024年9月16～17日(月火)

【集 合】 岩舟支所P AM 4:00

【費 用】 マイカー1台 : 14,800円

【メンバー】 CL:鈴木 SL:廣瀬 小林、福島、

9月16日(月) 曇り後雨 菩提峠登山口から二ノ塔・三ノ塔・塔ノ岳と登り、丹沢山を經由して丹沢最高峰の蛭ヶ岳に登頂し蛭ヶ岳山荘に泊る。

岩舟支所P4:00＝菩提峠 P6:05/6:20～三ノ塔 7:40/7:50～烏尾山荘 8:10/8:20～新大日 9:40/9:50～塔ノ岳 10:25/10:55～丹沢山 12:10/12:40～蛭ヶ岳 14:30～蛭ヶ岳山荘 14:35

丹沢山と蛭ヶ岳にもう一度登りたいとリクエストがあり計画したが、当人からの申し込みは無く4名での山行となった。岩舟支所を4:00に出発し、東北道から圏央道、東名高速道を走り秦野中



井ICで降りる。ICから県道71号線を進み、ヤビツ峠でトイレを済ませ菩提峠に向かう。丹沢表尾根はヤビツ峠が起点になるが、道路歩きが長いので車で菩提峠まで走り車を止める。出発の準備を整えストレッチを済ませて出発し、ゲート脇を抜けて林道を進む。10分ほど歩くとヤビツ峠からの道に出て、左に登山道を登って行く。樹林帯の薄暗い道を登り、途中のベンチで休憩し衣服調整と水分補給を行う。スタートから腰の状態が悪く、心配しながらの歩きが続く。階段状のや

やきつい坂を登り、ザレた急坂を登ると二ノ塔に着く。そのまま三ノ塔に向かって少し下り、緩やかに登り返すと三ノ塔に着く。曇り空だが明るく、富士山が見え歓声上がる。この時点では昨夜のヤマテンの天気予報を信じ、雨は降らないだろうと思っていた。三ノ塔からは急な岩場やクサリ場を下り、狭い鞍部を通して再び登り返し烏尾山荘に着く。ここからもアップダウンを繰り返し、行者ヶ岳から新大日に出る。このあたりから雨が降り出し、我輩の靴は露払いで中まで濡れていた。ここからは塔ノ岳へのきつい登りが始まり、靴の中はぐちよぐちよで腰痛に耐えながらの登りとなる。塔ノ岳山頂に着き、皆さんに腰や靴の状況を話し我輩は尊仏山荘に泊ることにした。蛭ヶ岳までの山行はSLにお願いし、3名で蛭ヶ岳を目指して出発した。



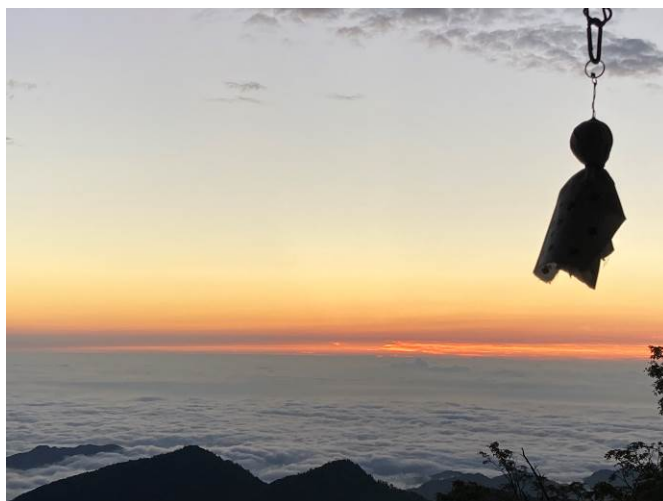
尊仏山荘から北へ向かう。ごく細かい霧雨のような状態なのでレインウエアーは着たまま進む。なだらかな下りだが、小さなアップダウンがある。大きな鞍部を過ぎるとジグザクの急登りで体が暑



くなった。途中で立ち止まってレインウエアーを脱いだ。登り上げると笹が茂っている。尾根道は天気がよければ眺めが素晴らしいだろうと思った。笹原の道は歩きやすい。が、所々泥濘があり注意が必要だった。とにかくアップダウンを繰り返した。後で、日高と竜ヶ馬場という大きなピークがあったことが分かった。丹沢山に着き、昼食休憩をとった。昼食後丹沢山を後にして、今日の最終目的地の蛭ヶ岳へ向かう。13:20 不動の滝避難小屋に着いた。2019年にリニューアルされたそう

で、新しく気持ちいい。ここでまたレインウエアーの上を着た。出発して、歩きながら見ると平坦な縦走路に見える所があった。が、近づくにつけて下って登り返す。とにかくアップダウンを繰り返した。1時間程進んだところで水休憩になった。Hサブリーダーが「もう少し。」と言ってくれる。水を飲んで出発。ここも後で、柳沢ノ頭と鬼ヶ岩ノ頭という大きなピークだったことが分かった。最後の急登を登り 14:35 に蛭ヶ岳山荘に着いた。レインウエアーと濡れた帽子等をハンガーにかけて乾かす。上がった部屋に管理人の方がブルーシートを敷いてくれた。ザックをその上に置き、中の荷物を広げた。チェックインをしてお金を払った。

15:00 位からビールを飲み始めて。持参したつまみを肴に話が弾んだ。夕食は 17:30 ということだったが、準備ができた管理人の方が「もう食べましょう。」と言い、17:20



には夕食が始まった。自分たち3人の他は若い男性が2人だけだった。1人は23歳の尾瀬の歩荷さん、1人は22歳の大学生とのことだった。大学生は虫を調べるために丹沢山に登って来たとのことだった。管理人の方も入って、6人で話が盛り上がり、気が付いたら18:40になっていた。片付けて、18:50には布団に入った。2・3時間は起きていたがそのうち寝てしまったと思う。

9月17日(火) 曇り後晴れ 蛭ヶ岳山荘から往路を戻って塔ノ岳でCLと合流し、その後も往路を戻り菩提峠に下山する。下山後秦野市内のスーパー銭湯「湯花楽」で入浴と昼食を済ませ岩舟支所に帰着する。

蛭ヶ岳山荘 6:25～丹沢山 8:00/8:15～塔ノ岳 9:20/9:40～新大 10:10/10:20～烏尾山荘 11:20/11:25～三ノ塔 11:50/12:10～二ノ塔 12:20/12:30～菩提峠 13:05/13:15＝スーパー銭湯「湯花楽」13:45/15:10＝岩舟支所 P17:30

朝5:00に起きて窓の外を見ると、ガスが掛かっていて真白い世界が広がっていた。

6:00に朝食をいただき、7:30に外に出ると晴れて来て富士山や丹沢山が見えていた。

9:00に山荘を出て、外のベンチで蛭ヶ岳から下って来る3名を待つ。

朝食が 5:30 なので 5:00 に目覚ましをかけていたが、4:45 に管理人の方が「朝焼けが綺麗ですよ。」と声をかけてくれたので起きた。言葉の通り、素晴らしい朝焼けが見られた。雲が動いており、



すぐ見えなくなってしまう。が、また朝焼けになったりしていた。ベランダから降りてみたら、23 歳の歩荷さんが現れて、「あちらに行くと富士山が見えますよ。」と教えてくれた。行ってみると、なんと山頂だった。山頂は小屋から1分だった。広く砂利が敷いてあり、整備されていて、立派な山頂標識があった。富士山は一瞬見えて、あっという間に雲がかかった。待っていると、輪郭が少し見えてきて、また見えなくなった。一度は見えたし、山頂標識も写真に撮ったので満足して戻った。布団

に戻って片付けていると、日の出になったと言われ見に行った。日の出は5:20とのこと。真っ赤な丸が見えて、写真を撮ろうとすると雲がかかってしまう。根気よく待って、日の出の写真を数枚取った。

5:30 過ぎに朝食になった。お米が美味しいしおかずがけっこうあった。十分食べて、荷物を整理した。笹の道にはまだ露が掛かっていると思い、レインウエアの下だけを着た。予定の時間より早く小屋を出て、改めて3人で登頂して写真を撮った。富士山はやはり微妙だった。少し待ってなんとか写真を撮り 6:23 に出発した。



晴れを楽しみに下山した。鬼ヶ岩ノ頭、柳沢ノ頭を下るときは左の方が晴れて山の景色を見られて気持ちよかった。どこまでも続く山並みだった。不動の峰休憩所は、昨日の今日だが懐かしい気がした。1550mピークを超えて下り、丹沢山への登りになった。けっこうきつい、晴れて空が青いので嬉しい。後ろを振り返ると富士山が見えた。素晴らしい景色だった。今回の山行で一番の景色だった時々振り返り、青空と富士山をチラ見しながら登った。

丹沢山のみやま山荘でトイレを使った。少しゆっくりの休憩になった。元気が出た。景色を眺めながら進み、龍ヶ馬場、日高というピークを過ぎると、鞍部を隔てたピークの上に尊仏山荘が見えた。かなり下って登り返すようだ。気持ちを引き締めて下り、長い登りに取り付いた。岩場もあり歩きにく



かったが、1歩1歩足を動かした。疲れも出てきたが頑張って登った。なんとか尊仏山荘への木道になった。木道も長かった。やっと山荘が見えた。山頂標識の近くにSリーダーが待っていた。9:20だった。約束の9:40より早く着けたのでホッとした。休憩しベンチでレインウエアーの下を脱いだ。無事合流し3名にゆっくり休憩を取ってもらい、山頂で記念写真を撮ったら出発する。富士山は雲に隠れてしまったが、まずまずの天気で塔ノ岳からの長い下りが始まった。

往路を慎重に戻り、新大日から烏尾山荘まで下り休憩する。ここからが本日最大の難関になるので、水分を補給し疲れた足を休める。急坂を下って鞍部の狭い道を渡り、クサリ場を登ると長く急な登りが始まる。一步一步確実に歩を進め、最大の難所を登り切った。三ノ塔山頂でゆっくり休憩を取り、二ノ塔から長い下りを進むと林道に出て菩提峠の駐車場に着く。靴を履き替えたら車に乗り、スーパー銭湯「湯花楽」に向かう。秦野市街にある湯花楽に着き、温泉にゆっくり浸かって汗を流す。併設された食事処で遅い昼食をいただいたら帰路につく。秦野ICから東名高速道に入り、圏央道から東北道と順調に走り、予定より早く岩舟支所に帰着した。